

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	小児の健康障害への看護		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2学年		学期及び曜時限		教室名	
担 当 教 員	寺崎経子	実務経験とその関連資格	総合病院にて臨床経験 計15年(主に小児病棟勤務) 看護専門学校での教員経験 地域の学校看護師などの経験			
《授業科目における学習内容》						
成長発達過程にある子どもと家族の看護について、入院や検査・治療、健康段階や障がい、在宅など、さまざまな状況から理解する。子どもと家族について、保健・医療・福祉・教育の面から多角的に考えていき子どもの権利条約と重ねて学ぶ。また子どもの特徴的な症状、疾病の病態生理を含め、検査・治療の看護を理解する。						
《成績評価の方法と基準》						
授業の出席状況、グループワーク参加状況、課題の提出、筆記試験で総合的に評価						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学② 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院						
《授業外における学習方法》						
小児看護学概論や小児の健康増進への看護の内容もふまえ、健康障害を持つ子どもと家族の看護について学習する。小児の身体的・精神的・社会的に未熟でありのそのうえでのリスクや家族へのサポート、各疾患に特徴的な症状の看護を学ぶため、テキストや資料を基に知識を集約し理解できるようにしましょう。						
《履修に当たっての留意点》						
授業中にわからないことなどは積極的に質問し理解を深めてください。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	病気を持つ子どもと家族への看護			
		各コマにおける授業予定	入院中の子どもとその家族の特徴			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸器疾患をもつ子どもと家族の看護について説明できる			
		各コマにおける授業予定	RSウイルス感染症(病態・検査・治療・看護)			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸器疾患をもつ子どもと家族の看護について説明できる			
		各コマにおける授業予定	気管支喘息(病態・検査・治療・看護)			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	循環器疾患をもつ子どもと家族の看護について説明できる			
		各コマにおける授業予定	川崎病(病態・検査・治療・看護)			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	消化器疾患をもつ子どもと家族の援助について説明できる			
		各コマにおける授業予定	ウイルス性腸炎(病態・検査・治療・看護)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	消化器疾患をもつ子どもと家族の援助について説明できる		
		各コマにおける授業予定	腸閉塞(病態・検査・治療・看護)		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	内分泌疾患をもつ患者と家族の看護について説明できる		
		各コマにおける授業予定	I型糖尿病(病態・検査・治療・看護)		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	循環器疾患をもつ子どもと家族の看護について説明できる		
		各コマにおける授業予定	ファロー四徴症(病態・検査・治療・看護)		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	先天性疾患をもつ子どもの看護について説明できる		
		各コマにおける授業予定	染色体異常症(病態・検査・治療・看護)		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋骨格器系疾患をもつ子どもと家族の看護について説明できる		
		各コマにおける授業予定	上腕骨顆上骨折(病態・検査・治療・看護)		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経系疾患をもつ子どもと家族の看護について説明できる		
		各コマにおける授業予定	熱性けいれん/てんかん(病態・検査・治療・看護)		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	泌尿器疾患をもつ子どもと家族の看護について説明できる		
		各コマにおける授業予定	ネフローゼ(病態・検査・治療・看護)		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	血管・造血器疾患をもつ患者と家族の看護について説明できる		
		各コマにおける授業予定	リンパ球性白血病(病態・検査・治療・看護)		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	救急救命が必要な子どもと家族の看護について説明できる		
		各コマにおける授業予定	子ども救急救命の特徴/家族の特徴/子どもと家族への看護		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	救急救命が必要な子どもと家族の看護について説明できる		
		各コマにおける授業予定	救急蘇生法の実際と応急処置(誤飲・誤嚥・熱傷)		